

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和3年11月19日発行

金星食に思う

校 長 齋 藤 光 夫

11月8日、惑星の一つである金星が月に隠れる「食（しょく）」という天文現象がありました。右の写真は、帰宅しようと児童玄関前に出た際に見えた「食を終えた金星と月」を撮影したものです。

夕方の西の空、一番星で輝き始め、日没後にひときわ明るく輝く星が金星です。「宵の明星」と呼ばれています。

私は、金星を見るたびに、小木小に赴任した平成30年4月の始業式と学校だより第1号巻頭言を思い出し、初心に戻ります。

私は、経営方針の説明に金星の輝きをたとえに用いたのです。

金星は、輝いて見える部分の割合（輝面比）が変化するのですが、三日月のように輝面比が小さくなる時期の方が明るく輝きます。月は半月と三日月を比較すると半月が明るいのに、金星は細くなるのに輝きが増すのです。その理由は、金星と地球との距離にあり、近づくことで輝きを強く感じるためです。そのことを、子ども同士、教師と子ども、親子、学校と地域の関係に結び付け、「互いに近くに寄り添うことで、よさや輝きを感じ、分かり合える学校にしよう」と、私の目指す学校像を説明しました。

※ちなみに11月8日の金星の輝面比は0.44（光度-4.6等級）で、半月に近い形で輝いています。この金星は、このあとさらに輝きを増し、12月8日には輝面比0.23（最大光度-4.7等級）となります。望遠鏡等で覗いてみれば三日月形で輝く金星を確認できます。そして、その後の金星は、太陽の方向と重なるようになって見えなくなり、翌年1月下旬頃から「明けの明星」として日の出前の東の空で確認できるようになります。

輝きは近いほど強く感じるすることができます。しかし、「食」のように遮られたら目にすることはできません。そして、隠れている間も「輝き続けている」点は忘れがちです。

文化祭・学習発表会を終えましたが、作品作りやステージ発表に向けた制作過程という見えないところでも、一人一人が輝きを放っていました。目の前の成長した姿だけでなく、成長に至るまでの過程があつての姿であることを忘れてはいけなと改めて感じました。

